

まちネット岸和田会合録（05/08/24）

日 時 平成17年8月24日（水） 18:30～20:45

場 所 岸和田市立公民館

出席者（記帳順）

東山 千恵、板垣 由佳、秋山 倫子、池阪 雄宏、西岡 数房、昼馬 光一、中 眞茅子、野村 恵子
中川 麗子、相良 長昭、前田 秀幸、西尾 徹子、長浜 文女、佃 孝三、勇 徳和、鳥居 真理子
松阪 正純、中村 富和、北山 久代、今村 信彦、西村 真知子、馬場 由美子、尾崎 敏子、
風間 美穂、河原 早百合、正ヶ峯 晴美、久野 久寿喜

（進行）中村 （記録）今村

I.進め方

- ・ 偶数月はゲストスピーカーをお招きして自由に話していただく。
- ・ 今月のスピーカーは 城北地区公民館長 伊藤正哲さん（元 新条小学校長）
- ・ テーマは 「伊藤正哲が語る！ “協力社会とまちづくり”」

II. 記録

伊藤 正哲氏（プロフィール）

市内相川町・安福寺の住職でもある伊藤正哲（いとう しょうてつ）さんは、元々小学校の先生でした。新条小学校に校長先生として赴任した際、子どもたちが日常的に自然に触れ合う機会が少なく、また保護者の就労等によって、住民と子どもたちとの交流が少ないことを気にかけていました。

そんな時、学校近くに空き地があることに目をつけ、地域住民、学校の先生、子どもたちと協力して、みんなが遊べる「新条広場（ビオトープと畑と山）」を建設しました。現在では、地域住民の交流スペースとして、広く住民に愛されています。

現在は城北地区公民館長として、「子どもの居場所」づくりにも力を入れ、地域の見守り、子育て支援など、地域と連携した様々な取り組みを実践されています。

● 伊藤正哲さん講演の概要

- ・ 教育の目標は自立できる人間を作ることである。日本カモシカは2年間の子育ての後に「子別れ」をする。その映像を見たが、実に見事な親離れ・子離れの光景であった。それにひきかえ人間の場合はぶざまな状況である。
- ・ 引きこもりについて（登校拒否はまだしも拒否という積極性があつたが、今は消極的な不登校は12万人に達する）、その数は16歳から34歳で100万人に達する。無業者（ニート）は80万人。定職を持たないフリータは400万人～260万人、失業者は100万人と言われている。数百万人の納税しない国民を抱える事なので国家的な課題であろう。
- ・ 人間関係力について（人間関係力がないため人の中に入ってゆけない子どもが多くなっている問題について）「家を作って家庭なし」と言われる。



- ・ 最近は家で出産しなくなったので子どもたちに生命誕生の感動を実感する機会が少なくなった。
- ・ 零歳児から保育所に預けることも珍しくない。家で生まれない、家で育てないという事実が子どもにどのような影響を与えているのだろうか？
- ・ 3歳から5歳くらいまでは親子が安心して家で暮らせるような社会環境が必要ではないだろうか？風呂、食事も家族の特別な世話がなくても出来る時代は家庭内でも人間関係が薄くなる要因である。まして自宅での婚礼や臨終もなくなり「家」が人間関係の交流の場として機能しなくなった。
- ・ 農繁休暇で農作業を手伝ったり、自然の中で遊びまわるという体験も無く、地域においても子どもの居場所が無くなってきている。
- ・ このような社会環境の変化に対応するため私が行なってきた子どもの居場所づくりについて話す。
- ・ 新条広場、公民館スクール、土曜スクール、夏休スクールがそれである。城北公民館スクールは学童保育を補完するものとして始めた。
- ・ 公民館と学校で土曜日の子どもの居場所を提供したい。日曜はやらない。不特定の子どもの居場所を作りたい。学校を月～金を学校のための学校とし、土、日を地域の人と親が運用する学校とはできないだろうか。図書室などの特別室を土日に解放し、年寄りと子どもの相互交流できる場としたい。
- ・ 体に居場所だけじゃなしに、心の居場所も必要である。
- ・ マザーテレサの言葉「私は誰にも愛されていない。誰にも必要とされていないと思ったとき人は生きてゆけない」子どもにとっても愛されているという実感が大切である。「お母さんの宝物はなに」と質問して、子どもは親の愛を確認して安心する。
- ・ 退職後は私の住む山の村に自然体験できる場所を作りたいと思っている。
- ・ 今いちばん必要なことは子ども達に夢をあたえられる教育である。地域の子どものをどう育てるかという課題をまちづくりの中心にすえるとよいと思う。
- ・ まちづくりボランティアは布施行（人のためになにかをする喜び）である。慈悲行（慈母、悲母）でもある。「孤独矜寡」はいずれも一人ぼっちな意味であり力が出せない。共生（ぐしょう）＝Community がこれを解決するであろう。
- ・ 慈悲行と布施行を通して自己を生かしてゆくのがまちづくりボランティアの心ではないだろうか。
- 参加者の自己紹介と感想が続く。（省略）
- ・ それに対して演者の補足



- ・ 読書は文章力、語彙力、思考力、忍耐力を培うことができる。
- ・ 楽しい心で仕事をしてこれたのが私の幸せであった。教諭の時は「今日のあの子たちと一日を過ごせる」という嬉しい気持ちであった。校長時代も地域の人たちを巻き込んでのビオトープづくりが出来たのも楽しい思い出である。
- ・ まちづくりと学校教育は連携する時代である。新条広場の体験から言える。
- ・ 自然体験を教育に取り込めないだろうか。生き物との出会いは大切である。・・・・・・ 自然とのふれあい話がえんえんと続く。
- ・ お互いに健康に感謝して岸和田のため、子ども達のため頑張ってゆきましょう。